

令和3年度 学校自己評価

中津市立三郷小学校

評定判断基準 A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満
--

- 1 学校の教育目標: 課題に「気づき」深く「考え」意欲を高めて「挑戦」する児童の育成
 2 育成を目指す資質・能力: 言語能力・問題発見・解決能力

計画 (1月 7日)				確認・検証・改善 (2月 7～10日)		自己評価 (2月 16日)	
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当	達成指標に対する 達成状況の確認・検証	評価	改善方策・考察など
課題既習事項の力定着と得 習得の力の定着と得	○児童アンケート「キーワードをつかってふりかえりができた」(書けるか言えるの項目で◎と回答する児童の割合が60%以上) ○国語の単元テストにおける観点別の項目で80点以上の児童の割合が75%以上	学校 ○単元のまとまりを意識した授業を展開し、毎時間のキーワードの活用やふり返りによって、基礎学力(言語能力・論理的思考力)を習得させる取組	○国語・算数・理科の授業において、習得すべきキーワードを板書に位置づけるとともに、キーワードを見直し、考察、まとめや振り返りの時に使う。 ○毎回、単元テストを観点別に集計し、成果と課題を把握する。(個に応じたきめ細やかな支援)	粉	○児童アンケートで「キーワードをつかってまとめやふりかえりができた」(書けるか言えるの項目で◎と回答する児童の割合が58%、教師のセルフチェックシートは、100%の人ができたと答えている。 ○スキルタイムは、全学年で実施できている。 ○国語単元テストにおける観点別結果(80点以上の割合) ・1年 <知> 57% <思> 86% ・2年 <知> 80% <思> 80% ・3年 <知> 88% <思> 75% ・4年 <知> 67% <思> 67% ・5年 <知> 100% <思> 93% ・6年 <知> 100% <思> 100% ・スキルタイムの効率化を図り、確実に既習事項の定着を目指す。 ○親子読書、メディアコントロールとも実施できた。親の感想は、97%で2学期よりも10%記入率が高かった。	B	○達成指標を児童アンケート「キーワードをつかってふりかえりができた」の項目で◎と回答する児童の割合が60%を目指す。 ○「キーワード」を見直し・考察・ふりかえりの時にできるだけ使う。児童にもキーワードの意識づけをする。 ○各担任に学期に2回くらい単元テストでの成果と課題を書いてもらい、弱いところを明確にし、児童の指導に活かす。 ○読解問題を中心としたスキルタイムを確実にしていく。
		家庭 ○子どもの生活習慣を見直し、子どもと一緒に取り組む家庭環境づくり	○親子読書の声かけをし、子どもたちと一緒に取り組む。 ○学期に1回「親子でメディアコントロール」に取り組む。	行平 久恒			
		地域 ○授業での実習補助を中心に、GT(なかつスクスクプロジェクト)を活用した場面設定	○CGSの実働組織として、授業や活動の打ち合わせを各担当者で行う。	各担当			
問題他と協力して育成 他と協力して育成	○児童アンケートで、「ペア・グループ活動を通して思いを伝え合うことができた。」◎と回答する児童の割合を85%以上 ○児童アンケートで、「いろいろな方法で考えるためにICT・思考ツールを活用することができた。」◎と回答する児童の割合を85%以上(ホワイトボード・ロイロノートなど)	学校 ○思考ツール(ホワイトボード・タブレット)を活用して考えを深め、課題解決に向けて協働する取組	○【全学年】考えるための技法を位置付けるために、ペア・グループ学習を1日1回以上授業で取り入れ、思いを共有する。 ○【1・2・3年】ホワイトボードで自分の考えを視覚的に表現する。 ○【4・5・6年】ロイロノートの思考ツールで自分の考えを視覚的に表現する。	木下 菅田 木下	○<2月ふりかえりチェックシート>より、ペア・グループでは、思いや考えをつたえることができたを◎と回答した児童 平均94% ○いろいろな方法で考えるためにWB(ホワイトボード)やTT(タブレット端末)を活用することができた。を◎と回答した児童 平均98% ○<2月セルフチェックシート>より、「ペア・グループ学習」を、WBやTTを使って1日1回以上、授業で取り入れた。と回答した職員 平均83%	A	○学習ノートと学習ソフト(ロイロノート)を併用する「ハイブリット授業」だけでなく、コロナ禍の出席停止などにより、授業に参加できない児童の学力保障をするために、タブレット端末によるズームとロイロノートの画面併用も推進していきたい。
		家庭 ○家庭学習に集中できる家庭環境づくり	○「三郷っ子チャレンジカード」の取組に参加し、感想を書く。	粉			
		地域 ○「三郷っ子見守り隊」を中心としたあいさつ・声かけ運動の推進	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもの様子について、学校に伝える。(学期に1回アンケート)	各担当			
意欲的に行動する力の育成 意欲的に行動する力の育成	○共通アンケートの「みんなで何かするのは楽しい」の項目で、当てはまると回答する児童の割合を90%以上 ○児童アンケートの「感想発表で、自分の思ったことや感じたこと等を伝えることができた。」の項目で、◎と回答する児童の割合90%以上	学校 ○友だちや、社会との関係を大切にすることを育成する取組 ○身につけた力を活かして考えを深め、進んで実践する取組	○主に生活科・総合的な学習の時間にGTを活用した授業を学期1回以上仕組む。(事前事後学習を教科横断的に取り組む) ○行事・集会・掃除・学級活動などで、週に1回以上、感想発表の場を設ける。 ○各学年で、発表についての振り返りの場を週に1回以上設ける。	古田 森元	○共通アンケートの「みんなで何かするのは楽しい」の項目で、当てはまると回答した児童の割合は、92%だった。 ・コロナ禍のため、様々な活動が中止になったため、楽しいと感じられなかったようだ。 ○児童アンケートでの「感想発表で、自分の思ったことや感じたこと等を伝えることができた」の項目で、◎と回答した児童の割合は92%だった。	A	○引き続き、全児童に発表の場を保障し、発表態度・内容についての振り返りをそれぞれの学級で丁寧に行うことで、自分の思いを伝えるという意識をつないでいく。 ○達成指標の達成だけに限らず、それぞれの取組の中で、広く社会に生かせる力を身につけさせていかなければならない。
		家庭 ○家庭内で「三郷っ子スピリッツ(あいさつ・返事・言葉づかい・整理整頓・時間)」の励行	○学期に1回「三郷っ子チャレンジカード」の取組に参加し、感想を書く。	粉			
		地域 ○主に生活科・総合的な学習の時間の、GT(森林体験学習)を活用した場面設定	○CGSの実働組織として、授業や活動の打ち合わせを各担当者で行う。	各担当			
時間外勤務の削減 働き方改革の推進	○1箇月の時間外在校等時間を40時間以内にする。	学校 ○計画的・効率的に会議を運営し、個別業務に充てる時間の確保と、各担当の業務内容の精選 家庭 ○時間外のPTAや地域協育等に関する会議等の協議内容の精選と、妥当な終了時間の設定 地域 ○参加者は積極的に意見を出し、効率的な会の運営に協力する。	○ミドルリーダーは、提案内容について適宜、指導・助言を行い、提案内容の精度を上げる。 ○担当者・司会者は、会の進行管理と効率的な運営を行う。 ○参加者は積極的に意見を出し、効率的な会の運営に協力する。	教頭	○職員の前平均時間外在校等時間 1月…24h16m 前年同月比+3h ○月の時間外在校等時間40時間以上 1月…1名 前年同月比+1名 ・各種調査の締め切りに追われ、余裕のない職員が見られる。組織的に対応して効率化を図りたいが、小規模校のため、個の力に頼らざるをえない。	A	○各職員が計画的に諸準備や提案ができるようにする。40h以上の職員には「TO DOリスト」等の方策を提案する。また、業務スキルアップ研修を次年度は計画したい。 ○学年末に改善策を協議し、校時の見直しを含め、児童と向き合う時間をさらに確保できる体制づくりを進める。

チームやまくにめざす児童・生徒像

〇〇〇〇

郷土愛・地域に誇りをもち、力を尽くす児童・生徒

知徳心・基礎を大切にし、活用する力の定着と得

基礎知識・技能の習得

問題解決の力

意欲的に行動する力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする

働き方改革の推進

児童の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成